



彩の国環境大学修了生の会

会報

No.100 2024 春季号

URL: <http://sai-syuryosei.eco.coocon.jp/>

特集: エコライフのすすめ

—地球温暖化防止部会—



『モンシロチョウ』

- | | | | |
|---------------------------------------------|------|------------------------------------------------|-------|
| <input type="checkbox"/> 会長挨拶 | ・・・2 | <input type="checkbox"/> 『かすかべSDGsフォーラム2024』報告 | ・・・9 |
| <input type="checkbox"/> 「秋ヶ瀬公園野鳥観察会」報告 | ・・・3 | <input type="checkbox"/> 『幸手市市民環境講座 見学会』報告 | ・・・11 |
| <input type="checkbox"/> 「浦和コミセンまつり」を終えて | ・・・4 | <input type="checkbox"/> 私のエコ活動 | ・・・14 |
| <input type="checkbox"/> 特集:地球温暖化防止部会 | ・・・6 | <input type="checkbox"/> エコドライブを超えて | ・・・15 |
| ・エコライフのすすめ | | <input type="checkbox"/> 身近なフィールド観察 | ・・・19 |
| ・『わが家のエネルギー家計簿2023』集計結果 | | <input type="checkbox"/> 新入会員自己紹介 | ・・・21 |
| ・『エコライフDAY2023冬』集計結果 | | <input type="checkbox"/> CESS案内 | ・・・22 |
| <input type="checkbox"/> 『桜木公民館文化祭』レポート | ・・・8 | <input type="checkbox"/> 総務部からの連絡 | ・・・23 |
| <input type="checkbox"/> 『環境大学修了者フォローアップ講座』 | | <input type="checkbox"/> 会計、表紙解説、編集後記 | ・・・24 |



2024 年度の環境活動開始を迎えるに当たって思うのは、今年度こそは「平穩無事な平和な年度に成ります様に」です。年明け元旦の 16 時 10 分我が家の正月も二人の子供たち家族も 31 日から泊り、元旦も地域の氷川神社に皆揃って初詣、久し振りに 1 時間も並んでお参りし、孫たちおみくじも「大吉」と大喜び。又、境内には同じ町内会の「囃子連」仲間たちの演奏でも祝福され、家に帰ってからも楽しく盛り上がりとうと思っていたら皆の携帯電話の緊急地震速報が鳴り響き TV にくぎ付け！

震源は能登半島付近・・・少なくとも家族関係者たちは大丈夫と思ったら、次男家族が住んでいる新潟市内でも震度 5 強の速報、お嫁さんの実家に電話通じず、孫にショートメッセージ入り家を出て避難中と・・・大騒ぎで孫も新潟へ帰ると・・・毛布等積み込、近くのイオンで水・食料・医薬品等を車に目一杯積み込 18:30 には新潟へ出発・・・交通規制も有ったが真夜中の 1 時 30 分ごろ新潟市に到着し自宅とお嫁さん実家も問題なしで先ずは安堵でした。

良かった事は長男のお嫁さんも仙台で東日本の大震災経験有り、あの慌ただしい中で震災時の調達品を冷静に的確に指示してくれたことで有難く感謝。やはり女性は凄いです！

さて今回は学ぶことの大切さ・志と東京豊洲の場外市場の食事ランチ代の高さに驚いた点

- 1：会社を定年退職してから 10 年、学ぶことと仕事に対する姿勢が大切と痛感した事項
読売新聞 3 月 5 日紙面 LEDERS 経営者に聞く欄に勤めていた会社の現社長の記事が掲載されており創業 124 年の会社は典型的な「受注型 DNA」でお客様から宿題を貰わないとアクションを起こさない体質・・・当方も未だ引きずっています・・・社内でも担当事業部が違えば競合会社情報より情報少なく人物なりは知りませんでした。同じ理系の出身ですが入社後は地方の支社で営業を担当、事由は受注型会社なのでコミュニケーション能力 UP 先ずは必要と・・・同時に夜 9 時から英会話学校へ通って勉強・・・転機は 1990 年、当時、世界の環境対応をリードしていた欧州のドイツで開かれた世界最大の包装材・機械の国際展示会に当初はお客様と一緒に視察ツアーだったがお客様は行けなくなり・・・有休をとって自費で行きますと嘆願・・・そこで微生物によって分解される生分解性プラスチックを見て、視察の翌年には環境に優しいバリアフィルムの開発部門への異動希望し開発に従事し自分の名前で登録の特許は 21 件、現在ではその透明バリアフィルムは世界シェア（占有率）首位見直しました。やはり「受注型 DNA」から世の中の変化のスピードにはチャレンジしない事に慣れてしまうのはリスクと思います。当会のモットーも「出来る事から始めよう」です改めて、当会の諸々の環境活動もチャレンジの行動パターンも必要だと痛感しています。
- 2：東京臨海広域防災公園（防災体験学習施設）視察研修と豊洲場外市場でのランチの件
地域の民生委員研修の一環で参加したが、その施設の場所は東京ゆりかもめ有明駅そばに有り「首都圏で大規模な地震災害等が発生した時に緊急災害本部が設置」の場所で時期的に能登半島地震直後でも有り、都民・近隣県・外国人の子供から高齢者まで体験者が多数タブレット各自使って「AR 体験（拡張現実）学習」で危険箇所を確認出来良かったです。体験学習後に豊洲市場にて女性中心の参加者皆で美味しいランチを・・・しかし価格はディナー並みで選択難しくインバウンド客とのメニューの差等で現実の日本の立ち位置再確認内陸埼玉県とは違う開発進む湾岸エリアの利便性と災害リスク等気付かされる一日でした。

バードウォッチングに行ってきました!!

～ さいたま市 荒川・秋ヶ瀬公園野鳥観察会～

3月9日(土) 9時50分から7名で秋ヶ瀬公園でのバードウォッチングを開始、まずこの時期に渡ってきているヒレンジャクを観に行きました。駐車場から5分歩きヤドリギがある大きな木に約100人程の望遠カメラの人たちが囲んで見つめています。3羽に100人はすごいのですが、普通のことです。ほかの場所へ移動して野鳥園や付近の森へ進み、多くの鳥の声を聴きながら小鳥を見つけましたコゲラ、エナガ、シジュウカラ、シメ・・・など。池の方まで歩くとシロハラが水辺にいました。鳴き声を聴きながら鳥合せをして21種でした。まだまだ多くの鳥や生きものがいますが季節が冬から春に向かう今、十分に楽しめた2時間を過ごせました。

可愛らしい エナガ



尾羽が緋色 ヒレンジャク



ヒレンジャクが好む
ヤドリギ



くちばし太い シメ



地面に降りる シロハラ



小形のキツツキ コゲラ



事業部「令和5年度（2023年度）浦和コミセン祭りに参加を終えて」

コロナ禍の影響等で久しぶりでの開催参加と成ったが、浦和コミセン祭りはさいたま市浦和コミュニティセンター（浦和パルコの10階）を活動場所とする団体による日頃の活動成果発表を行い団体相互の交流や地域との親睦を図るためのイベントで今回は下記内容で参加しました。

（同時開催：同じ建物9階にてさいたま市市民活動サポートセンターのフェスティバルも実施された）

- ・日時：2024年3月2日（土）～3日（日）10：00～16：00＊準備：3月1日（金）13時～16時
- ・場所：さいたま市浦和コミュニティセンター10階 第7会議室
- ・参加内容：当会活動内容のポスター・写真展示と4種類の体験型環境学習（実験＆工作実技等）

【A:環境活動のポスターセッション】ホワイトボード2台と展示ポード2台の計4台(900×1800mm)

＊今回は浦和コミセンと大宮桜木公民館文化祭と同日開催と成った為、事業部手持ち品で対応

【B:実験と工作実技等及び担当】

1. 自然の昆虫・松ぼっくり等の実物紹介・・・担当：中村、茂木
2. ドングリ使用の工作実技・・・担当：原、澤村
3. 理科実験教室（水性ペンと花メダル）・・・担当：柴田、長谷川、小林
4. 電気発電実験・・・担当：松島、小口、雨宮
5. 各セッション応援&活動紹介・・・担当：宇塚、横山、新木、折口



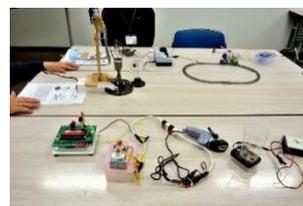
自然



ドングリ作品



花メダル



電気発電

【浦和コミセン祭りを終えて】

- ・ 久しぶりでの開催で入場者数を心配したが10階会場で3565人/2日間と多く、当会ブースも盛況で良かったです。対応も開催日が2日間と長く桜木公民館文化祭と重なり苦慮したが会員の協力で何とか対応でき、コミセン責任者より大変良かったと感謝され来年もと要請されました。
- ・ 当会の出展内容はポスターセッションや写真掲示等による活動紹介や各種冊子やパンフレット配布及び4種類の体験型環境学習と多岐に渡っており、多くの若い親子たちが自らの体験型工作等ができる為、とても好評で2日間続けて新たな友達を誘って来てくれた子供さんもいました。
- ・ 又、参加している色々な団体とも忙しい中での相互の交流や親睦や情報交換ができ良かったです。
- ・ 浦和コミセン祭りは規模の大きなイベントであり、会員だけでなくコミセン関係者の協力により盛況のうち無事に終了する事が出来ました。特に体験型展示は親子連れに大変人気がありました。
- ・ 多くの県民が当会ブースに見えられ、当会の活動紹介に興味を示される方も多く、良いPRの場になったと思います。課題は体験型工作備品の会場への持込と撤収での電車での人力対応は会員の高齢化に伴い中々難しく駐車場代費用面は有るが、次回イベントの検討課題とします。

【イベントの活動状況のフォト】

(1) さいたま市キャラクター「ヌウ」1-6 (2) 自然観察：カブトムシの大きな幼虫 5-5



(3) ドングリ工作：2-4

(4) 花メダルづくり：3-2

(5) 電気発電実験：4-7



(6) 当会ブース第7会議室 全体風景—6-2

(6) 当会ブース第7会議室 全体風景—6-3

*画面奥のパネル展示：自然系の蝶&鳥&昆虫 *手前左：花メダル右：電気 奥左：自然 億右：ドングリ



エコライフのすすめ



地球温暖化防止部会

気候危機が世間で叫ばれていますが、温室効果ガスは一向に減少せず年間 300 億トン台で推移しています。猛暑・豪雨・強風は増々脅威となるのでは？昨年熊谷市では 35℃の猛暑日が 45 日と過去最多を記録しました。食料不足も懸念されます。IPCC の提唱する温室効果ガスの 2030 年半減や 2050 年正味ゼロは実現にほど遠く思われます。ですが、みなさんと力をあわせて少しでもよい方向に向かっていきたいと思います。

当部会では新たに温暖化防止普及啓発用パンフレットを作成しました。上図および左リストはその一部です。以下に特記します。

- 1.節電** : 太陽光発電など再生可能エネルギーの利用は効果大。
- 2.脱くるま**: 下記データに示す通り家庭の CO₂ 排出量の 20%以上はガソリンです。
- 3.節約** : 以上の、家庭のエネルギー使用から発生する CO₂ 量を把握することも大切です(下記「エネルギー家計簿」参照)。
- 4.購入** : 牛肉などは成長までの栄養負荷もあり負担大きいです。
- 6.7.ゴミ削減**: フードドライブ等当会でも取り組んでいます。
- 9.森林** : 自然環境・教育も大切です。
- 10.支援** : 当会も仲間を増やし、活性化を。

未来のためのチャレンジ10

- 1 節電をしましょう。**
電気を止めてください。
- 2 自動車を抑え、自転車・バス・電車を利用しましょう。**
- 3 水道やガス・灯油も節約しましょう。**
- 4 生産から運搬・使用・廃棄までCO₂排出量の少ないものを購入しましょう。**
- 5 地元産で旬の農作物を選んで食べましょう。**
- 6 物を大切に使い3R(削減・再使用・再利用)を心がけましょう。**
- 7 食品ロスを減らしましょう。**
- 8 浄化の負担となる生活排水を極力少なくしましょう。**
- 9 森林はCO₂を吸収するので、大切にしましょう。**
- 10 CO₂削減に取組む企業や団体を支援しましょう。**

『わが家のエネルギー家計簿 2023』集計結果 参加者 9 名。1 人当りの CO₂ 排出少の順

参加者	世帯人数	電気	都市ガス	プロパン	水道	ガソリン	灯油	CO ₂ 排出 kg/世帯	CO ₂ 排出 kg/人
A	2	0	0	239	34	138	413	824	412
B	2	1,254	0	215	46	276	0	1,791	896
C	2	1,416	323	0	57	0	0	1,796	898
D	4	2,132	722	0	93	621	270	3,838	960
E	2	1,130	627	0	63	269	0	2,089	1,045
F	1	326	0	0	27	626	315	1,294	1,294
G	3	1,354	455	0	99	945	1,340	4,193	1,398
H	2	996	0	760	89	943	360	3,148	1,574
I	1	2,431	0	0	51	238	216	2,936	2,936
合計	19	11,039	2,127	1,214	559	4,056	2,914	21,909	
平均	2.11	1,227	236	135	62	451	324	2,434	1,153
用途別比率		41%	12%	7%	3%	24%	14%	100%	

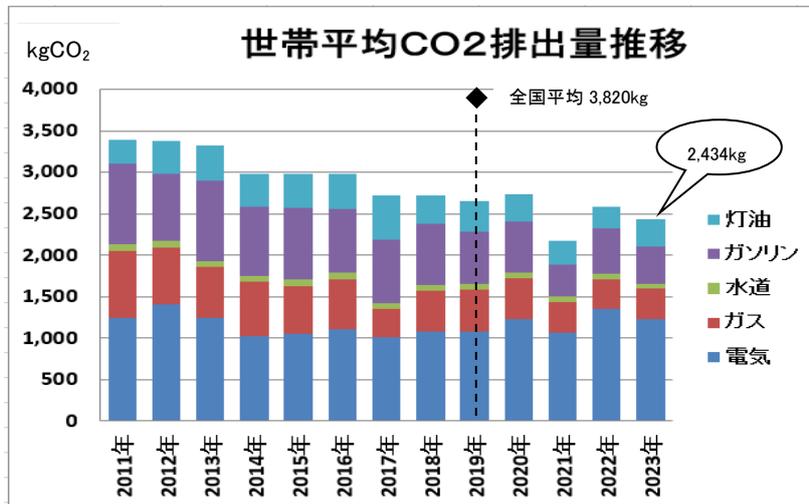
100%再生可能エネルギー電力契約

省エネ徹底

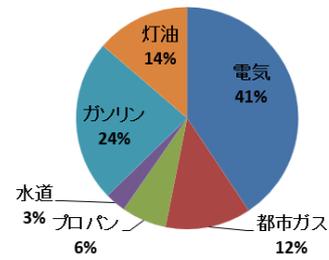
太陽光発電有

2013 年基準(1580kg/人)の 66%削減

2030年政府目標: 600



エネルギー毎の割合



「エコライフDAY2023(冬)」の集計結果

ご参加ありがとうございました。引き続きご協力願います。

参加者数: **956名** (301世帯)、CO₂削減量: **756kg**

地球温暖化防止部会 加産 済

No.	エコライフDAY2023(冬)チェックシート回答項目	項目別削減量(ε)	回答者数	回答率(%)	CO ₂ 削減量(kg)
1	室温21℃を目安に暖房を適切に使用した。	144	497	52%	72
2	エアコンのフィルターを掃除した。(世帯単位)	40	296	98%	12
3	ほかのことをするとき、テレビを消した。	21	804	84%	17
4	テレビなど家電製品を使わない時は、主電源を切ったりコンセントからプラグを抜いた。	70	623	65%	44
5	照明は省エネ型のLEDを使用した。(世帯単位)	113	296	98%	33
6	部屋を出る時は、明かりを消した。	19	747	78%	14
7	お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた。	84	844	88%	71
8	お風呂は冷めないうちにみんなで続けて入った。(世帯単位)	233	298	99%	69
9	トイレの便座暖房の温度を低くした。夏は切った。(世帯単位)	33	218	72%	7
10	炊飯器の保温機能を使わなかった。(世帯単位)	53	291	97%	15
11	電気ポットを長時間使用しないときはプラグを抜いた。	135	441	46%	60
12	冷蔵庫にものを詰め込み過ぎなかった。	55	505	53%	28
13	冷蔵庫の庫内温度設定を「強」から「中」に変更した。(世帯単位)	77	253	84%	19
14	冷蔵庫の食材をチェックし、買うものを決めてから買い物に出かけた。	19	563	59%	11
15	お店で手前にある商品を購入した。	12	642	67%	8
16	ご飯やおかずを、残さず食べた。	19	808	85%	15
17	野菜は旬のものを選んで食べた。	97	840	88%	81
18	買い物をするとき、レジ袋をもらわなかった。	33	590	62%	19
19	出かけるときは、水筒やマイボトルを持ち歩いた。	47	877	92%	41
20	出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した。	189	631	66%	119
CO₂削減量の合計		1,493			756

※1 : 参加者は、会員、その家族及び友人等を含みます。

※2 : 2024年1月1日~2月15日の都合の良い日に実施をお願いしました。

※3 : プナの木1本の1日当たりの二酸化炭素吸収量が約30εなので、約2万5千本分の二酸化炭素が減らせることとなります。

※4 : 実行率66%以下

※5 : 今冬は暖房が欠かせませんでした。服の調整や家の断熱の工夫などを心がけていたですね。車も極力控えたですね。

『令和5年度桜木公民館文化祭』レポート

—エコに関わる作品展示—

地球温暖化防止部会 松島 昇

2024年3月2日(土)・3日(日)にさいたま市立桜木公民館にて文化祭が開催されました。前年度と合わせて2回目の参加です。小中学生の作品も展示されているおかげで子どもづれの家族も多く見にこられ、盛況でした(来館者数 454名)。当会の展示物としては、エコ風景や野鳥・昆虫の写真・絵画・部会ポスター・新聞紙で作った手提げ袋・エコ標語かたの立体模型・パンフレットなどさまざまでした。今回のような公民館まつりは、子どもたちを含めて一般の方々へエコをアピールするのによい機会と思っています。来年度も同様の開催が計画されており、よりブラッシュアップして参加したいと思っています。当会参加者:3/1 準備:4名、3/2:3名、3/3:3名



当会の展示全景



新聞紙製手さげ袋の説明

「気候変動かた」のタワーゲーム (FoE Japan 販売品利用)
(標語例)「か」・・・カラカラの畑で食べ物作れない
「さ」・・・魚よりプラスチックがおよいでる
「そ」・・・その便利だれかを犠牲にしていない？



『彩の国環境大学修了者フォローアップ講座』で地球温暖化防止部会長が発表

テーマ: 米の高温障害対策～より良い米作りに向けて～



本年2月25日に環境科学国際センターにおいて首記講座が開催され当会の加藤部会長が発表されました。温暖化適応策の一環として、ご自身の職業に着目し、より良い米作りに向けた米の高温障害対策に関連した業者間協力、省力化や安全化、最新鋭技術の利用などを紹介されました。主食の課題について皆様熱心に聞き入っていました。

「かすかべ SDGs フォーラム 2024」参加結果報告

生活循環資源部会 No.320 鈴木純二

【3月16日、春日部市新庁舎&ララガーデン春日部店でイベントが開催され出展してきました。】

本イベントは、昨年3月にもイオンモール春日部店で開催され今年も、第二回目となります。今回は、春日部市新庁舎の1階と2階&ララガーデン春日部店との二カ所を会場に、〈かすかべ SDGs パートナーズ〉会員と〈かすかべ+1 サポーター〉会員による連携企画出展が求められ、彩の国環境大学修了生の会としては、・エコドライブ研究所さん・彩の国 Compostさん・ハートオブフラワーさんとの連携企画として出展させていただきました。

なかなか連携企画出展団体が少ない中、当会の出展ブースとしては、ララガーデン会場1階プラザ広場を使用させていただく事ができ、当日は天候にも恵まれ多くの見学者に会場いただく事ができました。



【イベント開始にあたっては、小林会長より開催の挨拶をいただいてスタートいたしました。】

・以下、各ブースのご紹介になります。

エコドライブ研究所様では【ドライブシュミレーション装置を使ったのドライブゲーム体験】イベント会場での、・エコドライブ研究所ブースでは、ドライブシュミレーション体験ゲーム、ワークショップを出展していただき、福田理事による解説も交え多くの親御さんに楽しんでいただきました。

体験者数：70組



ハートオブフラワー様では【「ディップアートでSDGsを学ぼう!」ワークショップ、ブースを開設。



体験者数：74組

ワークショップでは、ディップアート体験に参加いただいた皆さんには、作業後に「SDGs 学習用ワークシート」をお持ち帰りいただくと共に、アンケートとして Q-1 いちばん気になった SDGs の 17 の目標は何ですか? Q-2 どうして気になったのでしょうか?身近な問題を考えてみよう。

との質問にも答えていただいております。やはり関心の高い項目は、No.14、海の豊かさを守ろう。No.13 気候変動に具体的な対策を。の2項に高い関心をお持ちの様子があがりました。

脱炭素の提案【生ゴミを減らす暮らし、始めませんか?】コンポストで”デコ活”を紹介。
 彩の国 Compost 様の LFC バッグタイプコンポストと、西川部会員が北本市で広く活動している段ボール箱を利用したコンポストの紹介をさせていただきました。非常に身近な家庭に直結したテーマであり、ご婦人層を中心に多くの来場者に関心を持っていただけました。

・ ショッピングのついでに立ち寄ってくれるカップルも多く。 体験者数 : 94 組



当日のイベントは、名称に SDGs と入っているように、会場ブースに TV モニターを設置していただき、会場内に来られた、来場者に向けて、SDGs 関連テーマについてお話をさせていただきました。発表会場が屋外で、音響状態も良くない中、午前・午後と 2 回も出演していただき有難うございました。



今回のイベントは、春日部市新庁舎の完成お披露目を兼ねて、会場を同市庁舎1階・2階と近隣の商業施設 ララガーデン春日部店を使って開催されたものです。かねがね同市では、人口減少や高齢化が問題となっており、地域活性化のために「かすかべ SDGs パートナーズ」登録団体や、「かすかべ+1 サポーター」が協働してイベントを盛り上げる企画を提供していただけました。

生活循環資源部会では、毎月の定例会会合などに同市の市民活動センターを使用させていただいているご縁で、「かすかべ SDGs パートナーズ」設立当初からの会員に登録させていただいております。今回は、折角の機会でもあり、環境科学国際センターにも協力いただき同所の紹介パンフレットを持って、すべての参加団体の会場ブースを小林会長とご挨拶して回りました。



【岩谷春日部市長がブースにご挨拶、↑右側】

イベント開催にあたっては、営業中のショッピングモールでの開催になる事から、会場提供者側からの要請等もあり、バタバタした面もありましたが、会長はじめ会員各位のご協力により無事終わる事が出来ました。皆様の協力に感謝いたします。今後も埼玉県東部地区に於いて、CESS の知名度向上と彩の国環境大学修了生の会、会員募集活動も継続して活動していきたいと思う次第です。

〈写真提供：宇塚様、小川様、より提供いただいております。〉

本報は、筆者が、幸手市環境課と筆者所属「さって市民環境ネット」の連携で実施している（詳細は当会 No. 26 2023 春季号参照）令和5年度第2回幸手市民環境講座よりの報告に若干化学部質的知見を追加して作成したものである。

コロナ禍の影響で4年ぶりに環境見学会が11月7日（火）開催された。参加者は一般12名、スタッフ4名、環境課2名の計18名。今回は、寄居町の埼玉県唯一の県営広域埋立最終処分施設「埼玉県環境整備センター（環境センターと略）」と当センターの敷地内にある、環境分野で21世紀をリードする民間の「彩の国資源循環工場」の一つの「株式会社ウム・ベルト・ジャパン」（Um Wert；独語で環境）を見学した。当社は幸手市の一般廃棄物の廃蛍光管の処理工場であり、見学先選ばれた。

午前9時、バスで出発し、車内研修として環境課から挨拶、令和5年度エコライフ DAY2023 結果の報告（記入の電子化で慣れないことから家族の参加人数は減ったが、従来は実施日の1日限定が1週間内で出来るチェック項目を選択できるようになったことから、一人当たりの二酸化炭素削減量が大幅増）、さちネットの会長から活動内容の紹介があり見学会に相応しく良かったと思った。

「地域と共生」と称される「深谷－花園アウトレットプレミアム」に早めに到着し、散策を兼ねて昼食とウインドショッピング（有名ブランド店が多数あり）を夫々が楽しんだ。

午後になり、紅葉が始まりつつ森林の中に入り、バスの窓越しに多くの資源循環工場（10企業以上ありびっくり）を見ながら環境センターに到着した。埼玉県として資源ごみ処理対応場所として人里離れた地域に設けたことに納得した。筆者の学生時代、入社当時を思い出して、昭和30年代の高度成長と共に公害が大きな問題となり、昭和42（1967）年に公害対策基本法が制定・施行され、続いて関連法規の一つに、昭和45年（1970年）の廃棄物処理法の制定・施行（関連法規として、1990年代から資源有効利用促進法、容器包装・建設・食品・家電・自動車の各リサイクル法）されたのを受けて、埼玉県としては、昭和48年に廃棄物処理基本計画で最終処分場の確保を決定し、その後、寄居町を用地に選定、・・・寄居町と小川町に公害防止協定策定・・・昭和60年（1985年）建設工事着手・・・令和元年（2019年）供用開始・・・防災調整池完成・・・平成15年（2003年）資源循環工場起工・・・多くの工場起工・・・埋立処分場、緑地公園、グラウンド、サッカー場、メガソーラー等が建設・機能している。令和3年1月公害防止協定・細目協定の一部改定（災害廃棄物受入れ手続き導入）

最初に環境センターに案内され、担当者から、事業概要がDVDを見て補足説明された。

1. 事業者：埼玉県 2. 目的：廃棄物の処分地を自ら確保することが困難な県内の市町村・中小企業などのために、廃棄物の広域的埋立事業を実施 3. 規模：敷地総面積；137.4ヘクタール（h）、埋立面積；28.3h、埋立重量；271万t。

4. 埋立廃棄物等；有害廃棄物を除いた無機物を主体にした廃棄物で、次に掲げるもので、含水率、大きさ、形状などを制限。

(1) 一般廃棄物（市町村等）；ごみ・し尿処理場の焼却灰、不燃物。(2) 産業廃棄物（中小企業者、リサイクル推進企業等）；燃え殻、浄水場汚泥、廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、鉋さい、がれき類。(3) 建設残土

5. 埋立工法と安全管理：管理型処分場（※）で、二重シート遮水、サンドイッチ工法埋立。安全管理のための点検、環境検査の万全体制；地元自治体、県及び地元協議会での公害防止協定。

※・管理型：分解腐敗して汚水を生じる可能性のある廃棄物等を埋め立てる処分場。

下記の遮断型、安定型のいずれの埋立基準にも当たらないものがここに埋め立てられる。

一般廃棄物の最終処分場は、管理型処分場と同様の構造となっている。

- ・安定型：そのまま埋め立てて処分しても環境保全上支障のないものだけを埋め立てる処分場。
- ・遮断型：有害物質を含む廃棄物等を埋めてる処分場。コンクリートの囲いと屋根で周囲から遮断

された構造。

6. 浸出水の処理：浸出水（埋立地内に溜まる雨水）は寄居町公共下水道を経由して荒川上流水循環センターに処理される。
7. 埋立期間：平成元年から令和13年3月末まで（地元の公害防止協定帰還）⇒更に延長予定。
8. 埋立手数料（トン当たり）：焼却灰、燃え殻、鈇碎；22,000円。不燃物、廃プラ、ガラス・コンクリート陶磁器くず、がれき類；20,950円

説明会終了後、埋立完了済利用の緑地公園・運動場を見ながら13号埋立地を案内され、トラックで覆土が運ばれてショベルカーで埋立している状況を見学した。埋立地の構造（サンドイッチ工法）を思い出しながら眺めた。参加者からガス抜き管が見えるが「防災状問題ないか？」との質問が出て、「少量のメタンガスが放出される程度なので問題ない。」との回答があった。



環境センターの事業概要をDVDを見て知る



13号埋立地の覆土の様子

続いて、(株)ウム・ベルト・ジャパン（本社工場）の見学に移動した。表面玄関に“ISO 14001 認証指定工場”の垂幕を確認した。冒頭、講座室で事業概要の説明があり、工場内を窓越しに廃蛍光灯の入荷、大小・形状・選別、カレット化、水銀の作業員への無毒的回収などの説明を受けながら観た。以前はカレットを溶融してガラス工芸品を作っていたが（ペット、鳥、花瓶など展示）、現在は別の事業所に運んで対応しているとのことだった。



直管形蛍光灯破砕機への投入工程

講座室に戻り、蛍光灯、水銀灯、LEDの原理の説明。高寿命・水銀不使用のLED化が進んでいるが、コスト面で普及が今一つである。しかし、蛍光灯の水銀使用量が減量されるとともに、蛍光灯が形状別に徐々に廃止規制され、今後、2027年までに全面的に廃止されることが決まっている。一方、低コストの輸入品の蛍光灯もあり暫くは市場にある、との補足説明があった。

帰り際に、入り口の奈良の大仏の写真を見ながら、大仏建造時に使われた金箔が金と水銀のアマルガムで、塗った後に水銀が昇華して所謂、塗工の左官屋が水銀中毒で多数死亡した、との説明があり【後で調べたら、平城京の呪い（多数の死亡者）から、長岡京、平安京に遷都した背景の一つの裏話をあるが、実際は寺や僧侶の仏教勢力が政治に口出ししていたため、桓武天皇が天皇制重視のため遷都】。

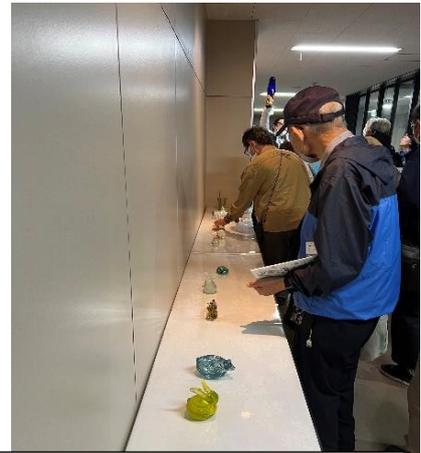
説明者は、廃蛍光灯等の処理・リサイクル工場の職員として誇りをもっていると感じた。



防毒マスク着用しての作業



環状管圧縮破砕: Hg 吸着回収



カレット溶融・ガラス工芸品へ

蛍光ランプに関する規制

ランプの種類	CFLi (電球形)	CFLni (コンパクト形)	LFL (直管形)	NFLs (非直管形)	CCFL/EEFL (冷陰極及び外部電極)
最初の条約規制 (廃止期限)	一般照明用 30W 以下、Hg 5mg 超 (2020 年)		一般照明用 <3 波長型蛍光体> 60W 未満、Hg5mg 以下 <ハロリン酸塩蛍光体> 40W 以下、Hg10mg 超 (2020 年)	—	電子ディスプレイ用 長さ 500mm 以下 ; 3.5mg 超 長さ 500 mm超 1500 mm以下 : 5 mg超 長さ 1500 mm超 : 13 mg超 (2020 年)
追加条約規制 (廃止期限)	一般照明用 30W 以下、Hg5mg 以下 (2025 年)	一般照明用 30W 以下 Hg5mg 以下 (2026 年)	一般照明用 <三波長蛍光体> 60W 未満、Hg5mg 以下、60W 以上、Hg5mg 以下、60W 以上、Hg5mg 超 (2027 年) <ハロリン酸塩蛍光体> 40W 以下 Hg10mg 以下、40W 超 Hg 含有全て (2026 年)	一般照明用 <三波長蛍光体> 全ての W (2027 年) <ハロリン酸塩蛍光体> 全ての W (2026 年)	種類に関わらず Hg 含有のもの (2025 年)
				ハロリン酸塩蛍光体は専門書参照	

※赤字は新たに追加された製品。COP5 までに、全ての一般照明用蛍光灯について「製造」「輸出」の廃止期限が決定

説明者は、廃蛍光管等の処理・リサイクル工場の職員として誇りをもっていると感じた。

帰りのバスの中では、参加者は見学結果の感想を話し、環境課から参加者へのお礼と今後の環境講座の予定の案内があり、暗くなった夕方帰着した。

因みに、ネットで調べたら幸手市は惣新田地区に最終処分場を保持していることが分かり、一度は見学したいと思った。筆者は、今回の見学で企業・団体勤務時代の環境対応を思い出し、また改めて勉強することも多くあり大変有意義な研修会であったと思った。

なお、本件について、化学物質部会例会で更に詳細についてトピックス報告の予定である。

皆様、こんにちは。春ですね。ここ数年は極端な気温上昇や豪雨が増えて、「うららかな日差し」や「穏やかな春の陽気」というより、「冬と夏がせめぎ合っている寒暖差の激しい時期」と言った方がしっくりくるような日々が続きますね。

私は、小学校の事務職員として勤務しながら、年に1回ゲストティーチャーとして、1～6年生、特別支援学級の教室に行き、環境学習の授業をさせていただいています。はじめは、教職員を対象に年1回財務研修（節税の観点から）を行っていたのですが、先生方の環境問題の知識、意識が低いことに気づき、また、教育現場でも環境問題が重要視されてきたこともあり、財務研修はいつしか環境問題を含んだ研修へと変化していきました。先生方にお話するためには、自分自身の知識や力量もさらにつけていかなければと感じ、エコ検定や省エネエキスパート、埼玉県地球温暖化防止活動推進員、県環境アドバイザー、環境カウンセラー（環境省）の試験を次々と受けました。肩書を得たので、校長先生に許可をいただき、「学校の電気、水、物を大切に」という事務職員からのメッセージとともに、環境アドバイザーとして直接子どもたちに環境のことを伝える機会をいただくことができました。今では、児童だけでなく、PTA（保護者）の方を対象とした講演を行ったり、他の学校へ異動された先生が講師として招いてくれたり、環境アドバイザーや環境カウンセラーとして依頼を受けたりと、少しずつですが、活動の場を広げています。



また、授業や講演会の講師としてだけでなく、市の環境審議会に参加したり、環境アドバイザーとして市立図書館の協議会に参加したりしています。これらの会議で出会う企業の方や地域の環境団体のリーダーさんたちのご意見は考えさせられることも多く、とてもいい経験になっています。

そのほか、地球温暖化防止活動推進員の研修やイベントなどに参加することにより、環境分野での知人も少しずつ増えてきました。昨年からは、縁あって「さいたま市環境会議」という団体に所属しています。月1回休日にしか会議がないので、なんとか家族の許可を得て、参加させていただいています。（さいたま市環境会議はさいたま市内のトンボ・チョウの調査などを行っています。会員随時募集中です。ご興味のある方はホームページにアクセスをお願いします！！）

そんなこんなで、徐々に活動の幅が広がってきて、最近では、学校事務職員としての仕事（出張など外せない日）やプライベートの用事（子どもの習い事など）と環境のイベントや研修がバッティングしてしまうこともあります。もっと色々なことに挑戦して、さらに環境のお仕事を増やしていきたいという気持ちは強いのですが、現実的にやらなければならないことも多く、ジレンマを抱えている…という状態です。やりたいこととやらなければならないこと、その調度いいバランスを取りながら、焦らず日々精進していけたらと思っています。

エコドライブを超えて ～あなたは私の行動を変えられますか？～

2023年12月 地球温暖化防止部会 福田慎太郎

私は小学5年生から環境問題に関心を持ちはじめ、エコドライブを中心に啓発活動に取り組んできました。その中での失敗や勉強から得たことを共有したいと思います。

1. 環境活動の真の目的とは？

テレビのバラエティ番組でも有名な国立環境研究所の五箇公一さんは「我々人類が行っている環境活動はエゴ活動だ」と言っています。あなたは、どう捉えますか？

環境や生態系を守るのは、人類の利益のためのエゴ活動で、地球や動植物にとっては人類がいなくても環境や生態系が回復し、望ましいという意味だと解釈しています。

だとすれば「地球のために」と言うのであれば、環境保全や温暖化対策をやめ、気候変動で人類が減るようにする方が良いのではないのでしょうか。陰謀論的ですが、トランプ前米大統領がそう狙っていたとしたら？ 人類を道連れに地球を元に戻そうとしたら？ 一定の支持者がいても不思議ではないとも考えられます。実際にはただの懐疑論者なのでしょうが。

そもそも「地球のために」というのはおこがましい！と言うのは私と一緒に環境審議会の委員を務める方です。人間は地球がなければ生きられません、地球ありきの人類なのに「地球のために」は不適切だとして、市の環境基本計画では「地球のことを考えて」に変更されました。似たような話で、バナナペーパーの株式会社ワンプラネット・カフェ取締役のペオ・エクベリさんやゼロカーボン印刷で知られる大川印刷の大川哲郎社長は「環境に優しく」ではなく「環境に正しく」と言っています。

あなたの活動は何のためですか？地球のため？人類の将来のため？自己満足のため？

2. 多様な価値観を尊重し優先順位を決める

環境活動の目的は人それぞれですが、地球のためでも人類のためでも、自分が行動を変えた後は、他者の行動を変えることが次のステップです。私はエコドライブをみなさんにやっていただきたいと思っていますが、取り組んでいない人が大多数です。なぜでしょうか？

理由は大きく3つです。①知らない、②正しく知らない、③正しく知っているけどやらない。最優先は①、②の方に正しい情報を提供することです。やるかやらないかは本人の判断です。しかし、判断に必要な材料がないのはその人にとって不幸ですし、私はその情報を提供する使命があると思っています。情報を提供すれば行動が変わるかももしれません。③の方は価値観の変化が必要で多くの労力がかかります。なぜなら、エコドライブのリスクや損失、環境負荷、健康面のデメリットや恩恵を理解した上で「やらない」と決めたわけですから、それはその人の価値観であり、無理に説得すれば反発を招きます。

価値観は人それぞれで「自分さえ良ければ気候災害の被害者は関係ない」というのも一つです。ただし価値観は変化します。例えば、休まず働いて社会に貢献することを良しとしていた人でも、家族を持つと休みを取って家族との時間を大切にすることが仕事より優先するようになることもあります。

3. 人の行動を変えることはできるのか？

私はあなたにエコドライブに取り組んでほしいと思っています。では、私にはあなたの行動を変える力はあるのでしょうか？ 逆にあなたは私の行動を変えることができるのでしょうか？ 答えはどちらもNOですね。なぜなら、私の行動を変えられるのは私だけ。あなたの行動を変えられるのはあなただけだからです。上司の指示に従うとか、恐怖による強制とかいうことではなく、対等な立場で行う市民活動での話です。

そもそも人は何を基準に行動するのでしょうか。マーケティングには「人は痛みを避けて快楽を求めるといふ言葉があります。自社の商品を顧客に売るときに、その人の「痛みを避ける」ことか「快楽を求めるといふことに役立つものは買ってもらえない」という意味です。人の行動は、この2つのどちらかに当てはまります。この記事を読んでいるあなたの脳もそうです。相手の痛みと快楽を知らなければ行動を変えるきっかけを与えることができません。そして、その痛みと快楽は本人も気づいていない、言語化できていないことが多く、それを知ることが最難関でもあります。途上国の被害者を痛みとを感じる人もいれば、救う活動に協力することを快楽と感じる人もいます。それに対して痛みも快楽も感じない人もいます。

※痛みとは嫌なことです。(ケガ病氣、お金が減る、裏切られる、無視される、将来不安など) 快楽とは気持ちのいいことです。(健康増進、お金が儲かる、趣味、地位名誉、褒められる、家族・恋人との時間など)

4. なぜ失敗するのか？ (間違った議論)

議論をしたがる人の中には「議論は勝ち負けだ」という価値観を持っている人がいます。価値観は人それぞれですからそれ自体を否定はしませんが、議論に勝っても相手の行動は変わりません。むしろ論破された側は頑なになります。目的は相手の行動を変えることですから、議論に勝っても結果は負けです。そこに気づかないのは視点の近さや視野の狭さです。

前に述べた通り自分の行動を変えた後は他者の行動を変えることです。北風と太陽のイソップ寓話は有名ですね。どちらが旅人のコートを脱がせたのでしょうか？ 議論は必要ですが、重要なのは勝ち負けではなく「議論は深めるもの」だと私は考えます。お互いに異なる人生経験や知識を持っているのですから、自分の知っているだけの狭い知識で言い負かすのではなく、相手の意見を尊重しながら新たな視点を手に入れることで議論が深まり、価値観の変化や行動の変容につながるのではないのでしょうか。ある有名な企業経営者は「知能の問題もある。頭の悪い人は意見を変えない」と言っています。逆に成功者は柔軟性があり、他者の考え方を取り入れて自分の考え方を変えていける人だと言われています。

生物界でも強い者ではなく、変化できた種が生き残ると言われています。あなたは80億分の1です。自分の人生経験だけに固執しすぎませんか？ 北風のように強く吹いても相手を変えられないことに気づくことが大切です。

5. なぜ失敗するのか？ (環境原理主義)

環境だけを基準にする環境原理主義も失敗の典型です。私も以前はどんなに暑くても停車時にエンジンを止めていました。なぜならアイドリングは環境に悪いからです。しかし、それは間違いだと気づきました。環境活動は地球のためではなく、地球で生きる人のために行

うものです。国連は持続可能な開発とは、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」と定義しています。環境だけを考えて現世代に幸せを捨てるように言っても何も変わりません。人間は自分の幸せを最優先に考えます。しかし、子どもがかわいくない親はいません。将来世代の幸せが自分の幸せであることに気づくことが行動変容のきっかけにもなります。そういった意味では若い世代が声をあげることは重要です。

6. ときに合理的に考えることができない人間

気候変動による猛暑や過去には起こらなかった水害のニュースを見れば、一人ひとりが将来のことを考えて温暖化対策に取り組まなければ、災害のリスクが増加し、自分の生命と財産を脅かすことになるから、いますぐにできることから始めよう。と私は考えますが、そんな合理的にいかないのが人間という生き物です。議論のところでも述べたように長期的には損であっても人は目の前の快樂に飛びつきがちです。いまの楽を取る。それを「現在バイアス」と言うそうです。議論に勝ちたいと思うことも正にそれではないでしょうか。

もし、あなたがどちらか一つを選ぶことができたらどちらを選びますか？「1. いま 10 万円もらえる」「2. 毎月千円ずつ 10 年間もらえる」どちらが嬉しいでしょうか？（※） 1 を選べばすぐに 10 万円が手に入りますが、2 は 10 年後に 12 万円になります。2の方が総額は多くなるのですが、感情的に 1 を選んでしまう人が多いのではないのでしょうか？ もし同じことを 10 年前に聞かれていたとしたらどうですか？ つまり 2 を選択していれば、いま手元に 12 万円があったことになり、1 を選んだ場合は 2 万円を損しているのです。「2 を選んでおけば良かった」となりませんか？（※物価は変動せず資産運用には使えず 10 年以上存命という前提で考えてくださいね）

気候変動についても、多くの人々が自ら被災し、炭素税が高くなり、商品の価格が上がり、子や孫から「なんでまだ間に合ったあのときに取り組んでくれなかったんだよ！」と言われる 10 年後になって初めて気づくことでしょう。でも、そのときにはもう遅いのです。そうなる未来が見通せているのに、そのことを知らない人が大多数なだけなのです。その人たちに適切な情報を知らせないとしたら私たちの活動の意味がありません。後悔とは過去を振り返ったときにするものです。いま 10 年前を振り返るとどうでしょうか。予測されていた以上に気候災害が現れていることに気づきませんか。10 年前にあれをやっておけば・・・といま思っても遅いのです。これから 10 年間でどうしますか？

7. 希望はないのか？

ハーバード大学の政治学者、エリカ・チェノウェスが発見した「3.5%ルール」というものがあります。解釈に賛否はあるようですが、おおむねこういった意味で用いられています。「人口の 3.5%以上が関与する抗議行動は必ず何らかの変化を生んでいる」

つまり、気候変動の問題に気づき行動しようとする人が、全体の 3.5%に達すれば社会が変わる。それは日本の人口の 3.5%かもしれないし、埼玉県民の 3.5%かもしれないし、市町村住民の 3.5%かもしれないし、地元の人々の 3.5%かもしれないし、自分たちができる小さな範囲に絞って考えれば 3.5%というのは、そんなに高いハードルではないのではないのでしょうか。例えば 10 人の友人グループで言えば、わずか 3~4 人です。

デレク・シヴァーズはTEDスピーチ「社会運動はどうやって起こすか」の中でこう言っています。「最初のフォロワーがバカをリーダーにする」と。

映像は、多くの人がかつろぐ昼間の公園で一人上半身裸で踊る男の映像から始まります。

「最初にリーダーが勇気を持って立ち上がる。彼は嘲笑される必要があります。でも彼の行動に続くのはすごく簡単です。ここで最初のフォロワー（追随者）が重要な役割を担っています。どう従えばいいのかをみんなに示すのです。そしてリーダーは彼を対等に扱います。リーダーは一人ではなく複数になりました。（男が二人で踊っています）最初のフォロワーは過小評価されますが実はリーダーシップの一形態なのです。目立つだけでも勇気があります。最初のフォロワーの存在が一人のバカをリーダーへと変えるのです。二人目のフォロワーが現れると今や一人のバカでも二人のバカでもありません。3人というのは集団であり、集団というのはニュースになります。だからムーブメント（運動）が公のものとなります。リーダーだけでなくフォロワーの姿が重要なのです。新たなフォロワーたちはリーダーではなくフォロワーを真似る者だからです。さらに二人が加わり、すぐに三人が加わりました。今や勢いが付いています。（周囲からたくさんの方が駆け寄り数十人の集団で踊り出します）臨界点に達し一つのムーブメントになりました。多くの人に加わるほどリスクは小さくなります。



どうしようか決めかねていた人たちも今や加わらない理由はなくなりました。もう目立つことはありません。笑われることもありません。急げばコア集団に入れるかもしれません。この後しばらくはみんな集団に入ろうとします。加わらない方がかえってバカにされるからです。これがムーブメントの起こし方です。教訓として、一人半裸で踊る人は最初のフォロワーを対等に扱う大切さを覚えておいてください。もう一つの大きな教訓は最初の一人には功績

はありますが、そのバカをリーダーに変えたのは最初のフォロワーだったのです。肝心なのは全員がリーダーになることではなく、本当に運動を起こそうと思うなら、ついて行く勇気を持ち、他の人たちにもその方法を示すことです。スゴイことをしている孤独なバカを見つけたら立ち上がって参加する最初の人間となる勇気を持ってください」

これは社会心理学では、社会的証明やバンドワゴン効果と言われることがありますが、特に同調性の強い日本人だからこその希望とも言えるのではないのでしょうか。人は他人から強制されることを嫌います。しかし、自ら気づいたことには信念が宿ります。誰かを変えようとするのではなく、自らが運動のフォロワーとなり、その姿を見せることが重要なのかも知れません。

口だけの評論家はもういません。最初のフォロワーとなり行動する人が必要なのです。

動画はこちらからご覧になれます→



春だ！フィールド（野外）に出よう。 「身近なフィールド観察」

自然環境・教育部会 中村文雄



春の自然観察がなぜ楽しいか、それはまず冬の間の時期と何が違って来るか。第一に気温が一桁から二桁になるので、生き物が冬と違い活発に動き出す。茶色が多かった緑地に新緑が進み

花が咲き乱れ、色の種類が増え、明るくなるし、春の香に包まれる。身近な公園もできれば沼や池・湿地・草原・雑木林がある所、すなわち里山がおすすめです。まず自分なりの好きな春の花を探すとその花に集まる昆虫も一緒に観察できる。私も菜の花を見ていると、その花に集まるハチ、アブ、蝶も一緒に見ることができる。ハチとアブの違いを遅まきながら今年確認しました。

主なアブとハチの違い

	羽の数	分類	幼虫の生息地	巣を作る	日本に生息する種類
ハチ	2対4枚	アリの仲間	陸上	○	4000種類位
アブ	2枚	ハエの仲間	陸上生活する者と水中生活する者	×	100種類位

	空中で静止できる	飛び方	体の特徴	攻撃性	毒針あり
ハチ	○	曲線状に飛ぶ	アリのように頭胸腹の間がくびれる	お尻の毒針	○
アブ	×	直線状	くびれない	口で咬む血を吸う	×

ハチ

アブ



湿地・沼・池には、アズマヒキガエルの産卵や、野鳥達が集まる。野鳥も春には繁殖のための準備として、飾り羽姿になるのもこの時期だけで特にサギ類は身近に観ることができる。

今回はコサギの飾り羽

コサギ	・後頭部に2本の細長い関羽が生える。
	・胸やお尻の繁殖羽がレースのように鮮やかになる。
	・足指の黄色も鮮やかになる。

春は野鳥が活発に動くため、普段一年中見られる鳥（留鳥）の繁殖の準備や主に春と秋に日本を通過する鳥、冬鳥と夏鳥の入れ替わりなどの渡り鳥など色々な野鳥が観察される。

コサギ



ダイサギ



冬鳥（ジョウビタキ ♂）



冬鳥（ジョウビタキ ♀）



【新入会員自己紹介】

彩の国環境大学修了生の会への入会

長谷川 祐一

1. 自己紹介

1958年(昭和33年)4月、埼玉県羽生市に生まれる。

30歳で結婚を期に蓮田市に移り、現在に至る。

幼少期は、川・田んぼ・森林と自然の中で過ごせる環境が沢山ありました。

また、小学校では、地域単位での活動も多く学年を超えた仲間との遊びもたくさんできた時代でした。よく遊んだのが、利根川・葛西用水(元塚・川俣の砂取場)中川の起点周辺で魚とりや、大天白神社 天神社(羽生古城天満宮) 毘沙門堂等に 友達と集まり遊んでいました。

春になると田植え前の田んぼが一面レンゲ草で紅紫色になり、今では見られない景色が広がっていました。

そんな幼少期を過ごしてきた私が中学・高校時代は、高度経済成長によって工業化や都市化が進み、大気汚染だけでなく水質汚濁や自然破壊などの公害問題が深刻化し、身近な川も『どぶ川』と呼ばれるほど汚れていました。そんなことも一つの動機になり、環境計量事業所という、民間の分析会社で働くことを選択しました。

職場では、有害金属・生活環境項目など環境基準項目や事業場排水基準項目の分析、現場での環境測定を経て、営業事務、環境庁・民間事業場への営業を経験し60歳で定年。現在、嘱託として勤務しています。

2. 入会のきっかけ

定年を迎えるにあたり、まったく知識のなかった生物関係や地球環境について知ることもこれからの時代必要かなと感じていたところへ彩の国環境大学修了生の会の理事を務める同僚から『令和4年度彩の国環境大学受講』を勧められたことがきっかけです。

しかし受講して感じたことは、専門以外の生物多様性・地球温暖化・世界の状況等々についてあまりにも知識がなかったことでした。

そこで、もう一度基礎課程・実践課程を聴講することにしました。

結果、令和4・5年度の2年間 受講・聴講し、少しだけ勉強もしたことでやっと講義の内容やその他の講演等の内容も少しずつ理解できるようになりました。

できれば毎年聴講生として、新たな知識を積み重ねられるよう参加したいと考えています。

今できることは、少ないですが修了生の会のメンバーとして活動のお手伝いができるよう頑張っていこうと思い入会を決めました。

3. 今後の抱負

私の学生の頃は、環境というと公害問題が中心でしたが、今は生物多様性や地球温暖化等が地球規模で問題になっています。修了生の会をとおして、地域で環境保全活動や環境学習活動が出来たらと考えています。地球温暖化防止部会に所属することにしました。

また、許される範囲で他の部会にも参加し経験を積み重ね、修了の会のメンバーや関係する団体の皆様と一緒に活動したいと思っています。

津嶋直人

1 自己紹介

1955年富山県生まれ、外食産業で食品衛生と工場環境管理などを担当した。コロナ渦人材不足で、勤務継続中。1990年より、加須市在住。

2. 入会のきっかけ

2023年度実践課程修了後、ボランティア活動を実践したかった。

3. 抱負

『翔んで埼玉』を笑いながら観ている包容力ある県民性は凄い。埼玉県の素晴らしさを多くの人に伝えたい。

環境科学国際センターからのお知らせ

ゴールデンウィーク

GW特別企画を開催します

開催期間 4月27日(土)～5月6日(月・振休) ※休館日4/30は除く
 研究所内部の特別公開や自然観察会、リサイクル銀粘土を使ったシルバーアクセサリー制作などイロイロなイベントを開催！

詳しくはホームページをご覧ください。



WANTED! サクラを枯らす外来害虫

クビアカツヤカミキリ

春の風物詩「お花見」がなくなるかも・・・サクラを枯らす外来害虫「クビアカツヤカミキリ」。発見したら当センターまでご連絡(Tel 0480-73-8370)ください。皆さまのご協力をお待ちしています。詳しくはホームページをご覧ください。

また、「光化学スモッグによるアサガオ被害調査」の参加者も募集します。こちらもホームページ(身近な環境観察局ネットワーク)をご覧ください。

SNSでCESS情報発信中

SNS(インスタグラム、YouTube、フェイスブック)で、生態園の自然の移ろいなどCESS情報を発信中! ぜひ、ご覧ください。



インスタグラム



YouTube



facebook



※イベントについては内容の変更又は中止になる場合があります。

来館の前には必ずホームページでご確認ください。

環境科学国際センター 検索



<総務部からの連絡>

平素より、当会の活動へのご協力感谢您いたします。ありがとうございます。最近になり、コロナの感染者数も減少して来て、第5類への移行後に、収まって来た様に感じますが、油断は禁物です。我々修了生の会も心機一転して、更に、環境活動に取り組まなければならないと思っております。

定期総会をはじめとして、当会報やホームページをご参照いただき、各自が考える環境に関する世間情勢の課題解決を、より深めていただくために、より積極的な活動をお願い致します。「**できることから始めよう!**」

・会員の状況：2024年3月31日現在 会員数 64名（内、賛助会員2名）

1. 重要事項のお知らせ

(1) 定期総会の開催予定

第27回定期総会を下記のとおり開催いたします。5月初旬には、お手元にメールか郵送で、議案・出欠確認葉書を送ります。議案への賛否や出欠の有無の返信を宜しくお願い致します。

記

○定期総会日時:2024年5月18日(土)午後1時30分～

受付は、1時から開始

○今年度の、総会前に来賓挨拶と出前講座を予定しています。総会は午後3時からの予定です。

○場所：さいたま市大宮区桜木町 シーノ「桜木公民館」講座室1

JR線 大宮駅西口 徒歩5分

本年度も、状況によっては開催の内容を変更する場合があります。別途連絡します。

2. その他のお知らせ

(1) 総会会場案内

さいたま市大宮区「桜木公民館」講座室1

JR大宮駅より、徒歩5分



以上

お知らせ 2024 年度分会費納入のお願い

会計担当 福田・黒田

いつも本会の事業にご支援とご協力を賜り、誠に有難うございます。

2024 年度会費納入につきまして、**2024 年 5 月 31 日(金)まで**に納入をお願いいたします。

なお、2021 年度より会の口座を普通口座に変更に伴い振込用紙の郵送はございませんので、各自のご利用金融機関から直接お振り込みいただくご案内をしております。

つきましては、下記の振込先(口座番号及び加入者名)をご指定の上、お振込みをお願いいたします。会費は正会員・賛助会員ともに年 3000 円です。振込手数料は各自ご負担いただいております。**2023 年度の会費が未納の方は 2024 年度と合わせて至急納入をお願いいたします。**会費納入は総会当日も受け付けいたします。

現金でお振り込みの場合は、ゆうちょ窓口にて電信払込み請求書による振込(手数料 660 円)となります。ご不便をおかけ致しますが何卒ご協力をお願い申し上げます。

- 1 ゆうちょ銀行からのお振込み(ゆうちょの口座をお持ちの方はこちらを推奨)

記号:10350 普通口座 口座番号:88324291

加入者名: 彩の国環境大学 修了生の会

(ゆうちょ銀行キャッシュカード、ゆうちょ窓口、ゆうちょダイレクトでお振込みの際、上記の振込先(口座番号及び加入者名)をご指定下さい。)

- 2 郵便局以外他の金融機関から振り込みの場合(ネットバンキング可能です)

口座支店番号:〇三八 口座番号:8832429

加入者名: 彩の国環境大学 修了生の会

.....

表紙解説

タイトル:モンシロチョウ、撮影場所:幸手市、撮影日:2022 年 4 月頃、撮影者:中村文雄

.....

編集後記

今年は 3 月の気温が低く、東京の桜の開花が 29 日と遅れましたが、過去 5 年間の平均の開花日は 3 月 17 日となっています。昔は桜の花の下での入学式でしたが、昨今は葉桜の下となっていて、開花日が半月位は早まっています。思い出すに、わが家では、55 年頃前の厳冬の朝の気温は $-5 \sim -8^{\circ}\text{C}$ で外の水道管が凍って台所の水が出ず熱湯をかけて溶かしていました。一日中真冬もありました。昨今は -5°C にまでなることはありません。米国の非営利組織「クラスメート・セントラル」では世界の平均気温上昇が 2023 年 10 月には産業革命前に比べて 1.32°C と試算されています。昔の夏は猛暑日 (35°C 以上) を超えることは少なかったですが、昨年は熊谷市の猛暑日が 45 日もありました。SDGs も特に地球規模の環境側面を優先し、地道な取組に合して GX(グリーントランスフォーメーション; 専門書参照) への取組が人類の最重要課題と考えさせられる今日です。

(編集部)